

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：ベネッセ 矢向保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：須田 早苗	定員（利用人数）： 60名（59名）
所在地：〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 4-30-17	
TEL：045-570-1070	
ホームページ： <a href="https://hoiku.benesse-style-care.co.jp/">https://hoiku.benesse-style-care.co.jp/</a>	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日	2014年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）	株式会社ベネッセスタイルケア こども・子育て支援カンパニー			
職員数	常勤職員：	19名	非常勤職員：	10名
専門職員	保育士	16名	看護師	1名
	管理栄養士	1名	栄養士	2名
	調理師	2名		
施設・設備の概要	(居室数) 保育室5室、事務室1室、医務室1室、厨房1室、職員休憩室	(設備等) ・木造2階建て、園庭があります。 ・入口はテンキー式の電子錠です。 ・施設設備は警備会社の警備システムを導入しています。 ・多目的トイレがあります。ホールはありませんが、行事の時には全員が集まって過ごせる場所があります。		

ベネッセ矢向保育園は、JR 南武線矢向駅より歩いて7分、あるいはJR 南武線の尻手駅より歩いて8分ほどのところにあります。住宅やマンション、事業所が混在する地域にありますが、近くには複数の公園があり子どもたちの散歩コースとなっています。ベネッセ矢向保育園は、2014年(平成26年)4月に株式会社ベネッセスタイルケアによって設立されました。法人の保育事業では、首都圏を中心として保育園を多数運営しています。園舎は木造2階建てで、内装には天然素材が多く用いられていて家庭的な雰囲気となっています。園庭には砂場などの遊具が設置され、季節の草花や野菜が植えられています。定員は、60名(0歳児～5歳児)、開園時間は、平日(月曜日～金曜日)は7時～20時、土曜日は7時30分～18時30分です。

### ③理念・基本方針

#### 【保育理念】

よりよく生きる力＝(Benesse)の基礎を育てる  
いきいきと健やかに毎日を過ごし、自信と意欲をもって未来を生きる子どもを育てます

#### 【保育目標】

- 自分で考え、すすんで行動する子ども  
自分からすすんで物事に取り組む態度をもち、意欲をもって最後まで頑張る子ども
- 友だちと楽しく遊ぶ子ども  
さまざまな人とかかわることの喜びを知りながら、楽しく遊べる子ども
- 感性豊かな子ども  
さまざまな発見と感動を味わいながら、自分らしさを表現できる子ども

#### 【保育方針】

1. 子どもの「個性と人格を尊重」し、主体性を育てます。  
一人ひとりの子どもの人格を尊重し、個々の違いを認めながら、その子の持っている可能性を最大限に伸ばします。
2. 自然な営みの中で子どもが「安定感・安心感・落ち着きを持てる室内環境をつくります。  
子ども中心の生活の流れをつくり、生活の場として子どもが安心して落ち着いて過ごせる園環境にします。
3. 深い信頼関係に根ざした「豊かな人とのかかわり」を重視します。  
保育者との愛情深いかかわりを大切にします。  
子ども同士の多様なかかわりを大切にします。
4. 身の回りの「社会・自然を通しての学び」を大切にします。  
さまざまな体験を通して、一人ひとりの感性を育みます。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

保育所保育指針に基づき保育・教育を提供しています。保育に関わる人の姿勢として、子ども自身の力で成長するための援助者であり、乳児クラスは、学年別のクラス編成を基本とし、特定の保育者との関わりの中で、子どもが安心して信頼できる大人との関係づくりを大切にしながら、一人ひとりの子どもが安定感を持って園生活を過ごせるようにしています。

3歳児以上は、異年齢でのクラス編成を基本とした縦割り保育を行い、異年齢という中で幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を大切に考えています。年齢の枠を超えた子ども同士の関わりを通して、思いやりの芽が育ったり、憧れの気持ちが芽生えたり、協力する楽しさを味わったり、互いに個性を認め合いながら自分らしさを発揮できるようにしています。子どもたちが保育園を自分の居場所だと感じ、安心して落ち着いて過ごすことができる環境や空間づくりを心掛けるとともに、兄弟姉妹が少ない最近の家族構成では体験しにくいことを、異年齢保育を通して経験したり、地域や文化を知る機会を提供し、子どもが主体的に遊び学びに向かう力を、保育者も共に楽しみながら育む保育を実践しています。

なお、『その子らしく、伸びていく』を支援するために、保育実践の中で大事にしていることを「その子の宇宙が広がり続けるためのことば」として40のことばにまとめ、その内容を軸にして保育に取り組んでいます。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月19日(契約日)～2024年2月14日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	2回(2018年度)

#### ⑥総評

##### ◆特長や今後期待される点

##### 【特長】

##### ●整えられた環境の中、子どもたちはその子らしさを素直に発揮し、のびのびと園生活を過ごしています

園は、子どもが自分で生活の流れを理解し、落ち着いて園生活を過ごせるように環境づくりに力を入れています。保育室には、子どもの成長や発達に合わせて、絵本や机上遊び、ごっこ遊びなどのコーナーが分かりやすく設定されていて、子どもが自分で遊びを選び、一人であるいは友だちと一緒に落ち着いて遊び込めるようになっています。乳児は、担当制を取り、食事などの生活面を特定の保育士が担当することで、子どもと愛着関係を築けるようにしています。保育士に優しく話しかけられ、思いを受け止めてもらい、子どもたちは自分の思いを言葉や表情で表しています。生活面でも、毎日の繰り返しの中で、自分からやりたいという気持ちが育ち、保育士の見守りのもと、少しずつ基本的な生活習慣を身につけています。幼児は、異年齢のクラス編成となっていて、年上の子どもは年下の子どもの世話をし、年下の子どもは年上の子どもにあこがれ、お互いに学びあっています。保育士の自分で考え、行動できるような働きかけのもと、子どもたちは、毎日のサークルタイムで自分の考えを発表して遊びのルールを考えたり、異年齢で話し合っ一つの作品を作ったりしています。行事は、5歳児が話し合っ計画を立て、中心となって取り組んでいて、今年度は海の生き物への興味から夏祭りの出し物で水族館をし、遠足も水族館に出かけるなどしています。日常的に異年齢で生活していますが、年齢ごとの計画を立て1週間に1回は年齢ごとの活動をしたり、製作の目当てを年齢ごとに調整するなど、年齢ごとの育ちも大切にしています。このような環境のもと、子どもたちは自分らしさを素直に発揮し、友だちと一緒にのびのびと園生活を過ごしています。

### ●職員はコミュニケーションを多く取り、目指す保育の実践に向けて取り組んでいます

職員は、毎月のクラスミーティングや全体ミーティングでは、子どもやクラスの様子について情報交換し、保育が理念に沿っているかを確認しています。個々の職員は、毎年チャレンジシートを用いて目標設定をして自己評価をし、年3回の園長面談で目標設定と進捗状況の確認、達成度の評価をしています。日々のクラスでの話し合いやクラスミーティングでも振り返りを行っています。園は、中間層の育成にも力を入れていて、毎月園長、主任、副主任、乳児リーダーによるリーダーミーティングを行い、園運営に関して話し合っています。副主任、乳児リーダーは保育に入って、子どもや職員の動きを確認し、職員の相談にのったり、アドバイスをする中で、運営に関する理解を深めています。また、入社2年目までの職員を対象とした「フレッシュミーティング」やクラスや年齢の枠を超えて話し合う「たてわりミーティング」を行うなど、話し合いの機会を多く作っています。「たてわりミーティング」では、自分たちが知りたいテーマで自由に話し合いをする中で、困ったことや悩みを相談し合える関係が作れるようにしています。このように、コミュニケーションを多く取ることで、風通しの良い職場環境が作られていて、職員は連携して保育にあたっています。

#### 【今後に期待される点】

### ●地域との関係作りの取り組みをさらに深めていくことが期待されます

園は、地域との関係作りを重点目標に掲げ、園庭開放や育児相談、交流会などを実施しています。地域の町内会にも参加していますが、地域住民との交流の機会は散歩での挨拶くらいになっていて、近隣の保育園や高齢者施設との交流や地域の行事への参加などは今後の課題となっています。地域との交流は、子どもたちの社会性を育て生活の場を広げるだけでなく、災害時や園児や職員の確保などの運営面でも大切です。今後も地域との関係作りの取り組みを継続し、深めていくことが期待されます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

個人個人でそれぞれがしっかりと理解し、自己評価をまとめていったが、その後職員間で話し合いながら大変ではありましたが、園を見直す良い機会になりました。

特に地域の中の保育所に求められていることを前回からは少しずつですが関わりをもてるようになりましたが、コロナ禍もありまだまだ課題であると職員で確認しあい、改めて今後目指していく姿を意識することができました。

保育内容については、調査員の方々に実際に保育の様子を見ていただき、子どもたちの伸び伸びした姿、互いに刺激しあいながら成長している姿、十分な自己主張と甘えを表出しながら安心して過ごしている姿、一人ひとりに丁寧に向き合い、尊重していると評価していただき、非常に嬉しく思います。これからも自信を持って日々子どもたちに向き合っていくことを続けていきたいと思っています。また、職員のヒアリングでは、職員一人ひとりのモチベーションの高さを感じていただき、私たちが日常、保育に真摯に向き合っている面を評価していただきました。職員間のコミュニケーションは常日頃から強く意識していることで、これからも大切にしていきたいと思っている項目です。今後もより一層、風通しの良い関係作りに努めていきたいと思っています。

保護者の皆様からいただいたアンケートからも、園生活におおむね満足いただいていることを感じ、嬉しく思います。いただいたご意見は深く受け止め、可能な限りすぐに改善できるよう努めてまいります。

これからも保護者の皆さんと共に、第二の家庭として子どもたちのよりよい成長のために尽力していきます。

前回受審した際の職員のモチベーションを人員がかわる中、今も同じように保っていることを評価していただきました。これからもしっかりと基本理念を大切に継続していきたいと思っています。

ベネッセ 矢向保育園 園長 須田 早苗

## ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり